

大学院課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

医系科学研究科博士課程前期

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析項目 1-1-1	分析項目 2-1-1	分析項目 2-1-2	分析項目 2-2-1	分析項目 2-2-2	分析項目 3-1-1	分析項目 4-1-1	分析項目 4-2-1	分析項目 4-2-2	分析項目 5-1-1	分析項目 5-1-2	分析項目 5-2-1
医系科学研究科	⑤	④	⑤	④	④	⑤	④	⑤	④	⑤	⑤	⑤

自己点検・評価単位	分析項目 6-1-1	分析項目 6-1-2	分析項目 6-2-1	分析項目 6-3-1	分析項目 6-3-2	分析項目 6-3-3	分析項目 6-4-1	分析項目 6-4-2	分析項目 6-4-3	分析項目 6-5-1	分析項目 6-6-1	分析項目 6-6-2
医系科学研究科	⑤	④	⑤	④	⑤	④	④	⑤	④	⑤	④	④

自己点検・評価単位	分析項目 6-6-3	分析項目 6-6-4	分析項目 6-6-5	分析項目 7-1-1	分析項目 7-1-2	分析項目 8-1-1	分析項目 8-1-2
医系科学研究科	④	④	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

大学院医系科学研究科では、医学・歯学・薬学・保健学の4分野における基盤的研究の深化と分野間の連携・融合を図り、生命医科学の急速な進歩と医療技術の高度化に迅速に対応する先端的な教育研究を推進することにより、従来以上に高度なチーム医療を担うことができる高度専門医療人を養成するとともに、旧来の学問分野の枠を超えて、複合領域や新しい領域で活躍でき、「持続可能な発展を導く科学」に貢献できる人材を養成することを目的としている。

医系科学研究科の博士課程前期は、従来の医歯薬保健学研究科の4専攻を新たに総合健康科学専攻として再編し、その中に5つの学位プログラムが設置されている。それぞれのプログラムにおける教育活動を展開する上で、必要な教員が配置されているとともに、医系科学研究科に共通する教育支援施設として、図書館や情報メディア教育研究センターなどが霞キャンパスに配置されており、学生に有効利用されている。

総合健康科学専攻の令和6年度入学定員は、74名（スマートソサイエティ実践科学研究院を含めると76名）であり、各プログラムの受入人数の目安は、保健科学プログラム44名、薬科学プログラム18名、公衆衛生学プログラム5名、医学物理士プログラム2名、生命医療科学プログラム5名となっている。令和6年度の入学者数としては、これら1専攻全体の入学定員に対し154.1%を確保できており、定員も充足している。なお、生命医療科学プログラムは対応する学部を持たないこともあり、年度によって入学者数に変動が生じ定員に満たない年もあったが、HP等を充実させることにより、その魅力を発信し入学者数の確保に努めた結果、令和6年度は240.0%と定員を充足することができている。

保健科学プログラム、薬科学プログラム、公衆衛生学プログラム、医学物理士プログラム及び生命医療科学プログラムでは、養成すべき人材像が異なるため、それぞれの目的に沿った内容・水準の教育課程が体系的に編成され学生に周知・提供されている。学生は講義、演習等を通じて様々な知識やプレゼンテーション能力を修得するとともに、研究を立案・実施し、修士論文を作成することで問題解決能力を身につける。修士論文の審査及び修士論文発表会での発表を経て、合格者には修士の学位が授与される。なお、個々の学位論文の審査は、3名の教員からなる審査委員会によって適正かつ厳格に行われている。各プログラムにおいて授与される学位の名称は以下のとおりである。

保健科学プログラム：修士（看護学）、修士（保健学）、修士（口腔健康科学）

薬科学プログラム：修士（薬科学）

公衆衛生学プログラム：修士（公衆衛生学）

医学物理士プログラム：修士（医科学）

生命医療科学プログラム：修士（医科学）、修士（歯科学）、修士（学術）

総合健康科学専攻では学生の成長を促すため研究指導グループによる研究指導・助言が日々行われており、また、研究意欲の向上や国際的な視野を養うため研究科として大学院生の海外での学会発表支援制度を設けている。さらに、修士論文発表会において優れた発表を行なった学生に対して優秀発表賞を

授与するなどの顕彰制度も設けている。大学院修了時アンケートによれば、大学院課程における講義や演習の履修及び研究活動を通じて、ほとんどの学生が文章表現力、応用力、思考力、論理性、分析力などの面において、入学時に比べて向上したと回答しており、学習成果が上がっているものと考えられる。

一方、教員に関しては、研究科ではこれまで任期制又はテニユア・トラック制を採用しており、任期更新又はテニユア審査時に個々の教員の教育研究活動の成果を数値化し評価を行ってきた。これにより個々の教員の教育研究活動の質を保証し、その向上を図ってきたところである。教員の評価システムについては今後全学的な動向も踏まえ再考を要するが、何らかの形で教育研究活動の点検・評価を継続することが望ましいと考える。また、研究科において毎年複数回のFDを実施し、教員の資質向上に役立てている。

さらに医系科学研究科では、医学、歯学、薬学及び保健学の分野を超えた横断的な活動組織として、2つの委員会（融合教育推進委員会、国際教育・協働委員会）及び5つの研究グループを構成する学際的研究推進部会を設置しており、こうした活動を通じて、今後、新たな学際的・融合的な教育研究が生まれてくるものと期待している。社会のニーズに踏まえたプログラムとして、がん・ゲノム医療に欠かすことのできない遺伝カウンセラー養成コースの設置も行っており、様々な工夫を行っている。

医系科学研究科では教員は主たるプログラムを中心に活動するが、プログラムごとに独立しているわけではない。また研究科所属教員のみならず、原爆放射線医科学研究所・大学病院といった協力講座、寄附講座、共同研究講座、学外の連携講座も指導教員に加わっている。指導教員も主指導教員とは別の部局所属の副指導教員に指導してもらおうようにしている。このように教員はあらゆるプログラムの授業・指導・学位審査を相互に乗り入れて行なっているため研究科全体で評価を行なった。